

虐待を機械的に判断するのではなく、保健師自身の感性による虐待を見る「目」を育てよう！

保健分野の乳幼児虐待リスクアセスメントの使用方法

- 1 重症度判断を行っておくこと
- 2 高いリスク、中くらいのリスク項目が多いときは、虐待の通告を検討する
- 3 在宅援助を支援する場合は、親子の状況把握のために定期的に記入し、客観的に援助を評価していく。
※リスクアセスメントは虐待の判断ではない 臨機応変なアセスメントが大切!!

注意!
リスクアセスメント指標の数値にたよりすぎないこと!

乳幼児虐待リスクアセスメント指標

「身体状況」が「高いリスク」の場合は、虐待最重度で分離が必要

入浴していない、おむつかぶれ、季節に合わない服装、衣服取り替えていない、情緒的関わりがない、予防接種全て未接種等

「虐待行為を認めない」「傍観している」「無視している」等の消極的負担も含む

精神症状による自傷他害がある、医療の有無に関わらず養育者の状態で判断する

「共感性欠如」は養育者に疾病の有無に限らず、子どものニーズに合った行動が取れない状態

「被虐待歴」は養育者が主観的にとらえていることでよい

「子を拒否・受容がない」は具体的行動を指す言葉でなく、主観で記入可

「混乱・対立」は離婚等に至るときの緊張した状態。「暴力」は子どもに及んだり、暴力を見る心理的影響。「家族の変化」は同居者が増える、大家族から核家族になるなど

保健師を含めた支援機関に対する協力度

評価項目	高いリスク	中くらいのリスク	低いリスクまたはリスクなし	不明
1 虐待の継続	慢性 ○	ときどき		
2 年齢	3歳未満	3歳以上		
3 出産状況	多胎	低出生体重児	○ 単胎	
4 分離歴	親子分離あり 長期入院、施設入所、親以外の養育者等		なし	○
5 身体状況	骨折 頭腹部、顔面、性器の外傷 首を絞められる等重大な影響の危機	小さい傷がある たたかれている	該当なし	
6 発育状態(身長・体重)	-2SD以下または 50%タイル以上の低下	発育不良 成長曲線から低下	該当なし	
7 ケア等の状態	ケアとれない 放置 健診すべて未受診	左記の傾向あり・時々あり	特に問題なし	
8 健康状態	慢性疾患 身体障害あり		該当なし	
9 発達状態	月齢、年齢相当でない		月齢、年齢相当	
10 親との関係	あやしても笑わない 抱かれても反り返る 希薄(よそよそしい) 萎縮する など かかない	左記の傾向あり・時々あり	該当なし	
11 情緒問題	無表情 よく泣く 視線が合わない おびえ 不安 暗い 攻撃的 遊べない 感情コントロールできず 誰にでもべたべた			
12 問題行動	拒食 過食 異食 自傷 多動 かみつ く 弄便 異糞 夜遺尿 盗み 徘徊 虚 言 抜毛 性的言動	左記の傾向あり・時々あり	該当なし	
13 虐待の認識度	虐待行為と認識しない 虐待行為を認めるが改善できない	一定の改善ができる	虐待行為を認め、改善ができる	
14 精神状態	精神症状による自傷他害がある 未治療・治療効果の上がらない疾患あり 強いうつ及び強迫状態	左記の傾向あり 不安傾向あり	該当なし	
15 性格等の問題	衝動的 暴行歴あり 共感性欠如	左記の傾向あり 未熟(わがまま、依存的)	該当なし	
16 依存症の問題	アルコール、キャンブル等嗜癖の問題あり シンナー・覚せい剤等乱用の疑い	覚せい剤には合法ドラッグを含む	なし	
17 虐待歴	本児きょうだいへの虐待歴(不明含) きょうだいの不審死	過去に説明の曖昧な怪我あり 飛び込み分娩、健診3回未満、3か月以上の未受診	なし	
18 被虐待歴	被虐待歴あり 愛されなかった思い		なし	
19 妊娠状況	望まぬ妊娠 妊婦健診未受診	第1子若年出産 12週以降妊娠届	該当なし	
20 子への感情・態度	子を拒否(受容)がない きょうだいで間での不平等な扱い 体罰の容認	左記の傾向あり 気持ちはあるが一貫しないしつけ	該当なし	
21 育児(ケア)の問題	育児しない、できない 極度の不潔 医療を受けさせない 偏ったしつけ	左記の傾向あり 育児知識の不足 事故防止・監督不十分 育児負担あり	該当なし	
22 家事の問題	衣食住に重大な問題がある	料理・清潔・家計のやりくりの問題がある	該当なし	
23 子を守る人的資源	子は在宅で虐待者がほとんどみている	子どもは在宅だが他にも養育者がいる 保育所等社会資源の利用	常に他の養育者の目がある	
24 家庭内非虐待者の態度	非虐待者がいない 虐待を認めない 傍観している 一人親家庭も含む	気づいているが子を守れない	子を守る	
25 夫婦・家族関係	断絶 混乱・対立 不和 暴力 家族の変化	夫婦間の不満 ひとり親家庭 親との対立	該当なし	
26 経済状況	生活が経済的に苦しい 経済基礎が不安定	やや苦しい 計画性が乏しい	該当なし	
27 居住状況	不衛生、不適切な居住状況 転居を繰り返す	左記の傾向あり 時々あり	該当なし	
28 相談できる人・機関	地域で孤立 親族と対立 両親の片方だけとの対立も含む	少しサポートがある	援助あり	
29 援助協力度	援助の拒否 家の中に入れない 問題意識がない	時により態度が変わる	協力する SOSが適切に出せる	
計	12 個		個	個

その他大きい要因となっている状況()

高いリスクが12個以上(うち子どもにも5個以上)のときは、重症度が重度であることが多い

生活時間帯に虐待者以外の大人がいること。虐待を止められるかは問わない